

1	水		16	木	祈禱会
2	木	祈禱会 (月報印刷と発送作業)	17	金	
3	金	文化の日	18	土	
4	土	永眠者記念礼拝式・聖餐式 (永松師)	19	日	礼拝式 (野村師・呉教会)
5	日		20	月	
6	月		21	火	
7	火		22	水	
8	水		23	木	勤労感謝の日
9	木	祈禱会	24	金	
10	金		25	土	
11	土		26	日	礼拝式 (KGK・鈴木主事)
12	日	礼拝式 (奨励：Y兄)・役員会	27	月	
13	月		28	火	
14	火		29	水	
15	水		30	木	祈禱会 (月報印刷と発送作業)

11月お誕生・洗礼記念日の皆様おめでとうございます。(敬称略)

編集後記

11月号は10月29日(日)に教会行事が集中したため内容が盛り沢山に。今年度の後半に向けて皆様のご意見を集約すべく多くの兄弟のご参加をいただいて「教会交流会」が実施できたことは、大きな一歩だと感じました。

◇ ジェフリー・スティルゴ師の証し要約は別紙で差込みとなっています。ご容赦ください。師が礼拝のスクリーンで報告された多くの画像(インドネシア報告)をお見せできなくて残念です。

◇ 9月23日の三野恵子姉展覧会写真では半袖なので、その後、秋が駆け足で訪れたことがリアルに感じられます。

◇ 旧約聖書 ヨブ記 14章16節『今、あなたは私の一步一步を数えておられません。』(新改訳聖書)

教会月報

2023年 11月

No.390

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

新しいぶどう酒は新しい皮袋に

そのころ、ヨハネの弟子たちがイエスのところに来て、「わたしたちとファリサイ派の人々はよく断食しているのに、なぜ、あなたの弟子たちは断食しないのですか」と言った。イエスは言われた。～中略～「新しいぶどう酒を古い革袋に入れる者はいない。そんなことをすれば、革袋は破れ、ぶどう酒は流れ出て、革袋もだめになる。新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。そうすれば、両方とも長もちする。」

マタイ福音書 9章14～17節

ここでいう古いぶどう酒とはモーセの律法であり、新しいぶどう酒は主イエスさまによる救いの福音を指します。律法を守ることによって神の民とされる生き方に、歴史は人の罪深さという現実によって不可能であると示し、人の弱さを露わにしました。主イエスさまの示された新しい契約、救いの福音は、守るといふ人の業によってではなく、神のみことばを信じる信仰によってもたらされる全く新しい救いの形を世に示したのです。

新しいぶどう酒を旧態依然の古い体質、古い価値観で受け止めようとしても順応できず、手に負えません。しかし、主の福音を信じる時、自らのすべてが新しくされる神の御業を人は経験するのでした。

主なる神さまを信じる、すなわち自らの救いを信じる事は、私たちすべての者を全く新しく生まれ変わらせます。すべてを新しくされる神の御業に生きる者として過去を脱ぎ捨て、新しい私とされるのです。

三浦 功牧師(広島教会)～岡山教会10月15日礼拝説教要旨

秋深まる10月半ばの日曜日。地区派遣で広島教会の三浦先生が来て下さいました。長袖シャツがお気の毒なくらい大汗💦で説教して下さいました。



秋の教会交流会 2023



教会員
全員で教会のありかたについて話し合う「教会交流会」が、春に続いて10月29日(日)礼拝後に行なわれました。17名が4組に分かれ、45分間、ざっくばらんに思いを持ち寄りました。
寄せられたご意見は11月5日(日)に教会玄関掲示板に報告されます。

(写真左:集会室、
中:礼拝堂、下:CS室)



～交流会 会計室～



「生活と共にある犬の陶造型」

K.M.姉

「展示品について。
人気ペットを形どったウェーブ、取っ手に犬がいるマグカップ、犬がふたの取っ手になるキャンディーポット。これらの生活と共にある作品は、色粘土を使い、ひとつずつが手捻り(器はロクロで制作)で作られています。型を使わないので、いずれもが世界でただ一つの陶造型です。」
☆K姉コメント:私の作品も売れ、「アート交差点」の活動の趣旨に微力ながらも貢献でき嬉しく思いました。



～9月23日 キャリ- 108 にて。恩師(オーナー)、スティルゴゴ一家と～



“神に救われ、良い行いをするために” 証し:ジェフリー・スティルゴ師、通訳:A.Y.姉

10月29日(日)は、岡山大学大学院で学ばれているジェフリー・スティルゴ師(インドネシア牧師)の証しをいただきました。
(証しの要約は別紙参照)



ジェフリー師の証しを聞いて I.S.姉

10月29日の礼拝で、ともに礼拝を守っている留学生ジェフリー・スティルゴ師の証しを聞く機会に恵まれました。母国では牧師としての活動をされていたとうかがいしました。一番印象に残ったのはとても力強い張りのある声でお話してくださり、キリスト者としての歩みに心血を注いでこられた様子を、直に感じ取ることができたことです。インドネシアでは貧しい人々への肉体を維持する食糧支援から、キリストという心と魂を支える糧を伝える活動をしてきた様子をお話してくださり、何よりもスライドで見た子供たちの生き生きとした笑顔を目の当たりにして、今、私には何ができるのだろうと改めて考えることができました。タイタニック号の事故で助かった人の話では、見たり感じたりできなくても「救いの手はいつも必ずそこにある」というメッセージをいただきました。不慣れた異国の地にあっても信仰を持って歩んでいるジェフリー師の証しに力をいただけたことを感謝します。



訃報

E.F.姉の御主人様が、10月13日(金)午前7時すぎに逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

